



眸胎明珠

戌號

全五冊

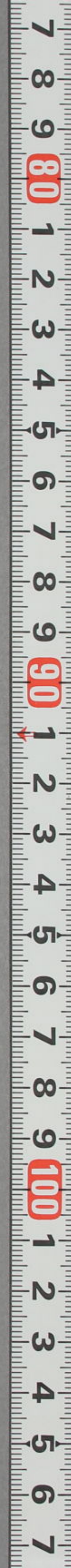
小本林澤祝三

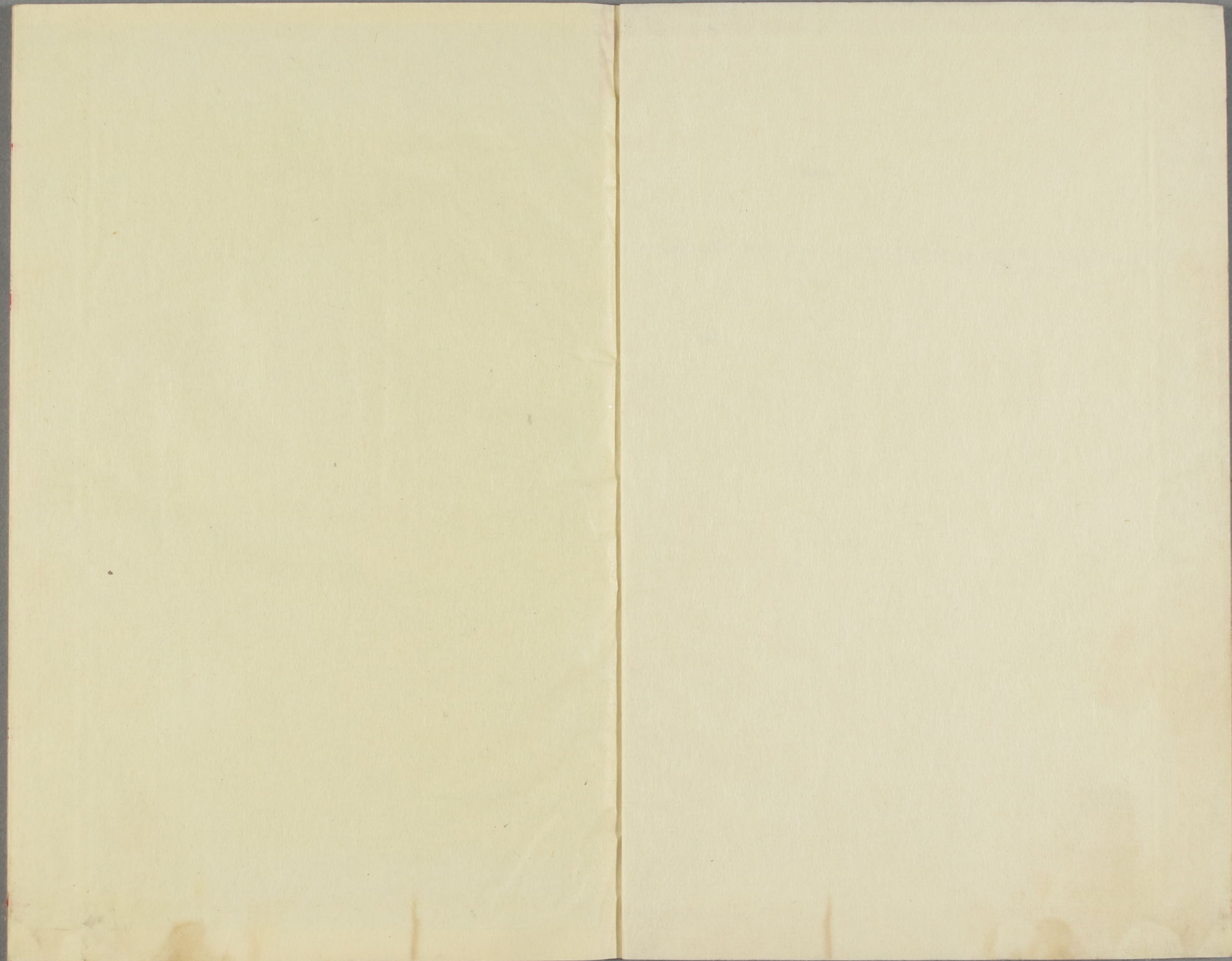
早稲田大学図書館

文書27

B 84

5





祝三鉦子来朝

今東洋の風雲の果る如何なるに哉
 諸國を以て當之國に干渉を令いし遼東を
 還附し純と遼東を今日強露の蹂躪を安んず
 餘威をばどし鴨緑江を渡りて韓國を衝んとし
 つた有様を朝の城を割き夕に五城を割る
 夫亦兵又利と昔の暴秦を今日露國
 多化せられ今日の内國諸公を濟すは多士家
 國の經營を充分に盡力する事勿論に存せ
 らんは才偉人前後相踵して殺し雄偉に

器國家の重臣と為るものなきは其故也と
言れ或は滿韓を交換すべしと論じ相之
其之れいつ城を割るの端南に事とて
果露の怒を南にすべし滿洲已に露軍中
其情を韓國に洩すは火を起しり明ら
交換の策は新火に枝す如き危き策と畏れ
且つ露國陸相クニツキの素遊甲午の役制
上將軍後有る幕僚と率いて清韓を漫遊
その觀り必しや露の陸相キハ法廷と決せ
しめ好然ならべし是危我邦家の前途宜哉

東洋實記

廿上露の軍艦十可し唱ふもの多きと今日露一
艦を増す英一艦を増す日一兵を増す露亦
一兵を増す風雲然と急ならんや此危急
吾邦家の安んずる置る青年の任
何と云はれ

明治三十六年六月廿八日 記三

いふ上様

長書信宮城縣川田郡深光温泉入浴一
條一平旅館より到着

七月一日

東洋實記

明治廿八年七月十三日

難和

皇國露國ト兵ヲ交ヘテ茲ニ一年有半ニ無シトス 此際
海陸ノ兩軍連捷ノ勢ヲ成シ綠江南山得利寺ノ
役ヲ經一ニ袁順ヲ攻圍シ陷落シ一ニ遼陽沙河ノ會戰
ニ繼いで奉天ニ擊破シ鐵嶺ニ逐ヒ哈爾賓ニ壓シ
一ニ豆滿江ニ臨ミントシ一ニ新々ニ薩哈連島ニ迫ルヲ成
ス、海ニ在テハ奇捷正戰相交ヘ敵ノ全艦隊屠ル、彼レハ
四十有五ノ兵ヲ損ジ三十有五噸ノ艦艇ヲ沈メ二十有
億ノ資ヲ費シ然カモ一ノ獲ル知ナリ 漸ク甘委縮退嬰
勢ヲ成ス我レハ人事尽シ得テ常ニ功成リ今將サニ
敵國本土ニ兵ヲ進ムル期ニ達セリ 漸クニシテ國家百
年ノ大計其基礎ヲ卫テ其一步ヲ進ムニ當リ名ヲ

人道之籍リテ和ヲ唱フル者アリ、存亡、機実ニ臨ミ存ス
豈独リ一海戰ノミニ止マランヤ

講和ハ断ジテ不可為、其理由ニ曰ハク、蓋シ露國ノ東
侵、勢ハ一朝一夕ニナルマラズ、能ク堅忍不抜ノ志ヲ以テ
徐カニ急ゲルハ彼特有ノ語ヲ固守シ長年月ヲ以テ西
比利亞不毛ノ野ヲ横断シ黑龍江一帶ノ地ヲ畧シ樺
太ヲ奪ヒ太平洋ニ突出シ浦塩斯德ニ軍港ヲ築キ
海軍ノ精カヲ茲ニ養ヒ極東ノ海權ヲ制セントス、彼ハ
即此カ故ニ數千里ノ荒野ニ鐵路ヲ横貫シ、治道
ニ市街ヲ經營シ東邦侵取ノ途衝ヲ成リ我ニ遼東
ノ還付ヲ迫リ、旅順大連ヲ其有トシ、關東州總督ヲ
置キ奉命匪ノ乱ニ乘ジ諸道ノ兵併進シ滿州ニ少省

群芳堂

ノ全而ヲ奪ヒ 韓半島ニ對シテハ常ニ壓迫ヲ加ハ

我扶導ノ失敗(井上伯、韓國 四政改革失敗)ニ乘ジ韓廷ヲ奪ヒ

(明治二十九年二月十一日 國王世宗)日本独立半島扶導權ヲ割

讓セシメ(五年五月、小村公使トラニバルシ公使トノ約定)而カモ又

等ノ議定極高ニ確守ノ誠意ナリ之ヲ蹂躪ス

故ニ開戦前ニ於ル形勢カハ大鐵道ニ由リ本國ト大

平洋トノ首尾相救フニ便シ大鐵道ノ海ロヲ不凍港

ニ開カシメ滿州ヲ強奪シ閉鎖シ利益ヲ独占シ大

海軍ヲ黃海ニ建造シ極東ノ海權ヲ制シ韓

半島ヲ壓シ旅順ノ防備ヲ嚴シシ關東半島ニ大

陸軍ヲ備ヘ清國ノ死命ヲ制シ六億ノ資金ヲ滿

州ニ投ジ十五市ノ同胞ヲ滿州ニ有ス、其志ハト云フ

可カニ企圖スル知リテ可キナリ若シ此ノ如クナラバ滿州
豈独リ新黨亞細ヤ止マシヤ韓半島支那ノ沃野亦彼
國謀ヲ見ズシテ終ラザランヤ唇亡ビテ齒寒カラザラント
スルモ得難ト哉

此ノ雄大ナル經營ハ夙トシ露國ガ全カヲ注クテ熱心ニ
着手実行スル者ナリ然レモ我ノ經營ノ我國ニ及ボス效果
如何言ハシテ明ナリ國家進運爲之ニ沮止シ國家繁
榮爲之ニ犧牲ニシテ立國基礎爲之ニ危ヤシトス
如此クシバ此ノ國家獨立生存ノ絶大問題ニ非シテ何ソゾ
苟モ我レシテ獨立生存ノ全ヲ謀ラントモバ自衛ノ權ヲ
行使シテ日本教興ト到底並立セザル知ル露國ガ我
對岸ニキキタル政治的軍事的切ノ大經營ヲ根本的

ニ破壞ヒカル可カニス 茲ニ至テ解決ハ一途アルノミ曰ク
彼ヲ任スニヤリ然ラズンバ我々遂ニ任シシカ

二國利害相容レカル者ハ國親ムズ有事毎ニ干戈ニ訴フ
古來皆然リ昔時羅馬大帝國ノ起ルヤ四隣皆從服
ス独リ海ヲ隔テ「カルセーダ」ノ一商市都アリ二者利害常
ニ相衝突ス兵ヲ合ヒスルハ前後一二十年ノ和ヲ講ズルハ
三圍然カモ其ノ滅スルヤ城都皆屠ラレ婦女尙ホ髮ヲ
斷ケテ弓弦ニ代ヘリト言フ古來有教ノ數ハ一ナリ
蓋シ而虎争ノ孰カ傷カカル可カラザルハ之ノ數ナリ
今形勢如此シテ彼東漸ノ志漸々成リ我レニ教
興進運ノ機熟ス我々熱カシテ底止スル無クシバ彼
我ノ間常ニ利害相衝突シ争議續出シ干

女一ニミテ止マラン、此ノ憂ヲ無シメンニハ彼ノ大注
管ヲ根底ヨリ西復シ少クモ今迄數十年、彼ヲシテ東
漸ノ念ヲ断タシメ、東邦ハ東邦ノ東邦、西邦ハ西邦ニアリ、
若シ策茲ニ出テ、我々志成ラバ、百年ノ長計、茲ニ
成就シ、帝國ノ安泰、山ノ重ガハリマラン、西人ハ執カヲ着
黃禍ト言フ、黃禍不黃禍、我レノ聞スル、然シテ、
任ハ祖先ヨリ傳ル、家國ヲ全フシ、子孫ニ之ヲ永遠ニ
傳ルニマラン。

已テ一度、女ヲ執テ、我常ニ優勝ノ形勢ヲ制シ、
可ク、豈馬ヲ、綠江ニ、飲フニ止マラン、纏ヲ、松花江
ニ、洗フニ、已ニ、哈爾濱ヲ、畧取シ、浦塩ノ、攻圍成テ、
沿海ノ、諸州、唾手シテ、我有ニ、飯ス、尚進シ、敵ヲ

ハイカルノ、以東ニ、退カシメ、我々、屯田ノ、形成リ、漢農ノ、西業
鑛山牧畜森林諸種ノ、実益ヲ、獲得シ、或ハ、賊謀
或ハ、納貢、如此ニシテ、実利全ク、我々手裡ニ、納メ、
ベシ、ハ、此、已テ、實ニ、我々、我領土ナリ、此ニ、至ラバ、和
不和ノ、何ノ、関スル、所アリ、讓地償金ノ、提議、何ノ、
利スル、所ゾ、必ズ、悔コト、千載ノ、遺スノ、恨ナシ、況ニヤ、
如此キハ、先ニ、豊大、關ノ、企圖スル、知、今、我々、我々、
シ、エテ、尚進ニ、キ、我皇ヲ、シテ、東邦ノ、盟主ト、シマ、バ、
千載ノ、傳業、タリ、何ゾ、奮テ、起リ、ヤ、今日、此、時機、
ニ、臨ニ、テ、後、巡、沮、止スル、ヲ、エ、ン、何、ゾ、和ヲ、言フ、ノ、余
地、アラ、シヤ、

然ルニ、今、交戰、僅ニ、一年、有、餘、未ダ、敵ノ、本土ニ、

一歩ヲ進ムズ三四ノ戦勝ニ忸テ人心漸ク倦怠ノ
念ヲ生じ奢侈漸ク風ヲ成シ漸ク終局ノ目的ニ近
クトミ尚モ和ヲ口ニスル如キアラバ百年ノ大計ハ一歩
ヲ進ムルニ挫折シ災厄内ヨリ生ゼンカ此誠ニ社
稷安危ノ公ニ秋ナリ元ヨリ國家ノ大計社稷
ノ安危ニ関シテハ廟堂主ナル計アルヲ疑ハズ然レ共
敵ノ大經營ハ百年ヲ以テ成リ今ヲ將カニ終ラントス
我ハ其ノ初歩ニアリ彼ハ十中ノ九ヲ占タリ我ハ尚
一ヲ得ズ一敗地ニ墜ルモ彼豈容易ニ其志ヲ
棄ツル者ナランヤ境土重來知ル可キノコト故ニ我
ノ策ハ此ノ連戰連勝ノ勢ヲ驅テ將サニ歩路都ヲ
衝クノ概ヲ示シ内ニ勤險各々業々力ニ外他國

群芳堂

ノ信用ヲ維持シ資力豊富歳年ノ戦ニ堪ヘ久
シキヲ持スルノ実ヲ示スノ一途ニアルノミ若シ策此ニ
出ヅルヲ欲セズンバ寧ニ始ヨリ戦ハザルニ如カズ彼ノ
壓迫ヲ甘受スルニ如カズ或ハ人テ日和シテ彼ノ再
撃ノ勢ヲ成レ日再ビ戰フノ愚ヲ爲スニ如カズ此ノ識
者ノ執ラザルハナリ願フニ我ヲシテ五指ノ交々
彈カンヨリハ一拳ヲ加フルノ快楽ナク出テシメンコトナ
人或曰講和ノ事米國大統領ノ好意ニ出ツ
米國ハ我ニ最親國ニシテ大統領亦當代ノ偉材
ナリ其ノ人道世界平和ヲ和々々和々々勸ク條理可ナリ
我亦年余ノ交戰兵損シ財費ハ疲弊セズ
ト言フナシ講和説傾聽ス可シト何ノ愚福ゾヤ

我立テ于戈ヲ交スルニ我獨立生存社稷、全キヲ
謀ルガクメナレバナリ、故ニ國運ヲ賭ヒリ故ニ學ヲ國一致
タリ然レ、今テ初志ヲ母身カス、彼ヲ根底ヨリ破ラザラン
カ業ヲ創メテ半ニシテ止ムル者十年ノ後又戰フノ止
ヲエザルニ出デシキニ識者ノ議ラザルハナリ我豈濫リニ
兵ヲ好マンヤ、況ヤ先キニ遠東ハ血ヲ以テ贖ヒシハ
露國ハ故ハナクシテ之ヲ還附セシメ辱ヲ力國環
視ノ間ニ我ニ興ヘタリ、我ニ時勢ノ大局ニ視微マ
慎ミ漸ヲ戒メ羞ヲ忍ブ十年、今天我ニ以機
ヲ與フ會誓ノ耻豈雪ガズンテ止ム可ケンヤ、捲土彼
ヲ敗露ノ一角ニ驅逐ス可キノミ、
人道説可ナリ、又深リ願ヒルニ足ラズ、改米ノ國家

群芳堂

組織ニ在テハ基礎ヲ個人人類ニトシ個人人類アルハ故
ニ國家社會アリトシ人道自ラ規矩準繩ヲナス、
我建國ノ体裁ニアリテハ家國アリ然レテ臣子アリ
君アリ故ニ邦家社稷アリトス、我ヲ左右スルハ皇命
ノミ我レニアリテハ王命人道ヨリ重ク如何ヒシ、然レカ
モ尚我ハ常ニ文明ヲ平和ニ變トメ列國ト有誼ヲ篤
クシ國際ノ大法ニ從フヲ國交ノ要義トセリ、去歲時
局ノ解決我ニ平和ニ求メ提議半載ノ久ニ亘リ
露交説ノ精神ナリ曠日弥久、遷世ヲ事トシ陰
ニ兵備ヲ大ニシ我ヲ屈從セシムル、世界ノ事シク見
ルガクアラズヤ、近時講和ノ提議アルヤ我ハ米國
ニ應答ノ途ヲ尽クセリ然レ、彼ハ今尚誠立志ヲ

欠キ或藩和ノ一日本ハ露國ヨリ深ク之ヲ欲スト
世界ニ誣ヒ或ハ會見也、巴里ニホムントシ傍若無
人吾人ヲシテ果シテ孰カ戰敗國ナルヤヲ疑ヒシルノ
怪腕ヲ揮フ、元ヨリ外交ハ術數ヲ弄スルヤラン、然レ其
以テ恐ラハ未ダ深ク戰敗ヨリ自覺セザルニ出ヅ
地ノ大ヲ以テ民ノ衆ヲ以テ戰域ノ自國領土ニ非
テ以テ戰敗ヲ自覺セザル怪ニ足ラズ

三十年前普國ノ佛國ト戰フヤ、白王帝ナハホレシ
第三世ハセダンニ降リ、巴里圍ヲ受クルヲ數旬
日而シテ始メテ佛國ガ普國ニ誠意和ヲ講ジ
シ昔時ニ顧ミ、アルサスレハルレシノ二州ヲ割キ
二十億ノ償金ヲ償ヒ佛國ガ尚列強ノ伍ニ

群芳堂

落チズ常ニ独シ敵意ヲ挟ムノ現狀ヲ察セバ
思ヒ半ハ必退ゴシ、即チ今日和ヲ講ジ災ヲ
百年ニ殘ム非ハハ昭乎トシテ明ナリ況ヤ
醜虜ヲ變詭百出若シ欺レシテ戰機ヲ失シ
戰局ノ發展ヲ逸セム人心和ヲ念ヒ戰ハ倦ミ外
國ノ侮ヲ招ク、嗚呼此勝一を屈シテ復伸
バ可カラズ國勢陵夷復振ノ可カラズ長上其ノ
至リナリ、今日此ノ機ニ乘ジ彼ヲ逐ハズバ
以何答聖明以何祖先ノ靈ニ見ヘンヤ、
今日ハ國家安危ノ期ノ此ニおキ臨ヒ益々其年
國一致以テ王事ニ力シ可ク當局ノ臣ハ益々
怠ラズ至誠ヲ致シ忠義ノ志益々身ヲ外

ニ忘レ陛下ノ殊遇ニ報フルニ殊功ヲ以テセバ終局ノ
勝利我レ得ガラントスルモ得ガランヤ、固ヨリ勝
敗ハ兵家ノ常事ナリ一勝之ニ怛レズ一敗之ニ
懼レズ、只ユ勇往邁進彼トシ迫リ其ノ根柢ヲ
西復シユテ始メテ平和ヲ永遠ニ克復シ國家
泰山ノ安ニ置ケテトコト、
任韓ノ議敗ヒテ南洲帝都ヲ辭スル、詩ニ
武侯難再生 榛櫓遺矣多
噫何代カ秦檣勿カラシヤ、夏國ノ情禁ズル
能ズ一片ノ赤心ヲ披撫ス願クハ孺子ノ
座議立談ト目スル丁勿ランヲ

群芳堂

明治三十八年七月上旬

祝三稿

編集ノ二十

群芳堂

